

無痛分娩の説明書

I D @PATIENTID 氏名 @PATIENTNAME

この文書は、患者： @PATIENTNAME 様への無痛分娩について、その目的、内容、有効性、危険性などを説明するものです。説明を受けられた後、不明な点がありましたら何でもお尋ねください。

1. 当院での無痛分娩について

無痛分娩は痛みが少なく、妊産婦への負担が少ないため、分娩後の回復が早いと考えられています。当院の無痛分娩は、陣痛の痛みを軽減し（和痛）、リラックスして快適な分娩をしていただくことを目的としており、痛みを完全に取り去るものではありません。当院の無痛分娩の流れ、方法、メリット、デメリットなどを良くご理解いただいた上で、無痛分娩をお受けになるかお決めください。

なお、無痛分娩の費用は自費負担で15万円となります。

2. 硬膜外麻酔を使用した無痛分娩

当院では、硬膜外麻酔を用いた無痛分娩を行っています。

安全な麻酔管理のため、産科麻酔専任医師により硬膜外カテーテルを入れる処置を行っており、麻酔管理の対応可能な曜日が限られています。そのため、計画無痛分娩の体制をとっており、37週以降毎週の診察所見により入院日を決定しています。

無痛分娩の前日に入院していただき、診察の所見により子宮の出口を広げる操作（子宮頸管拡張や陣痛誘発剤（プロスタグランジン）の内服）を行います。翌朝より、診察所見により、子宮頸管熟化剤（プロウペス）の腔内挿入、陣痛誘発剤の点滴（オキシトシンまたはプロスタグランジン）を開始し、分娩の進行を認めた段階で硬膜外カテーテルを挿入し、麻酔を開始いたします。分娩進行が非常に急速で疼痛コントロールが難しい場合、産科麻酔専任医師が在中している場合には脊椎麻酔を併用することがあります。

毎週火曜日は産科麻酔専任医師により麻酔管理を行います。当日分娩に至らない場合の夜間と、翌日水曜日の麻酔管理は産婦人科医師が行います。毎週木曜日（主に経産婦）は、午前中は産科麻酔専任医師が、午後は産婦人科医師が麻酔管理を行います。当日分娩に至らない場合、夜間や翌日へ継続して麻酔を行う体制が取れないため、硬膜外カテーテルを抜去し以降自然分娩になります。

分娩誘発日より前に陣痛が来てしまった場合や、無痛分娩前日の入院後に分娩が進行してしまった場合など、麻酔を施行できないことがあります。

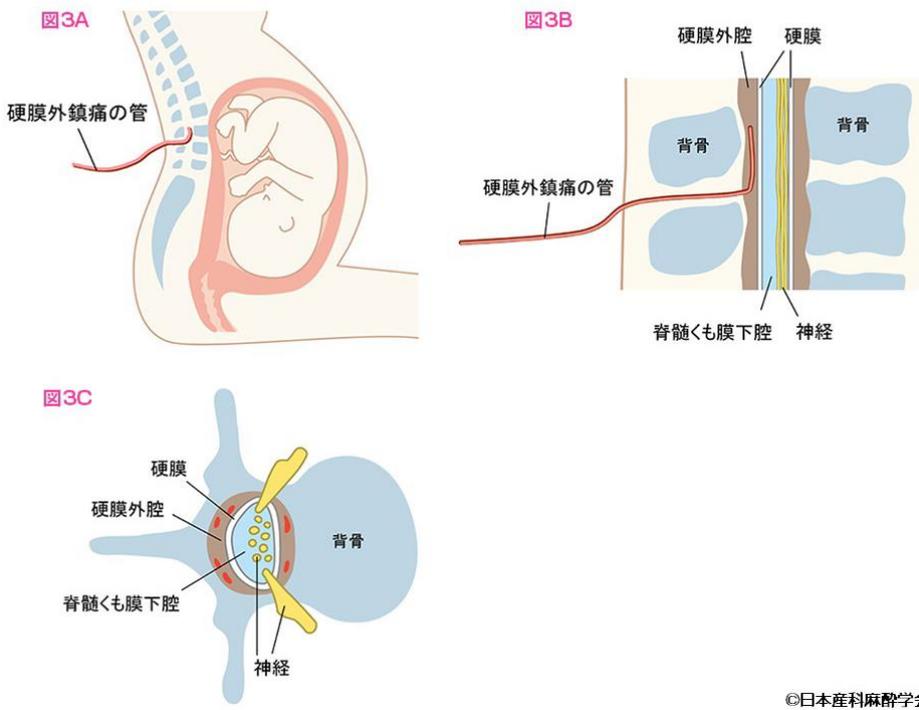
3. 硬膜外麻酔とは

背骨には硬膜という膜に覆われて脊髄という神経の束が走っています。硬膜外麻酔とは、硬膜という膜の外にカテーテル（細いチューブ）を挿入し、そこから局所麻酔薬を注入して痛みをとる方法です。ベッドで横向きになって頂き、背中から注射をします。背中の骨と骨の間がなるべく広くなるように、膝を抱えて海老のように体を丸くしてもらいます。背中を消毒後、痛み止めを注射してから行います。

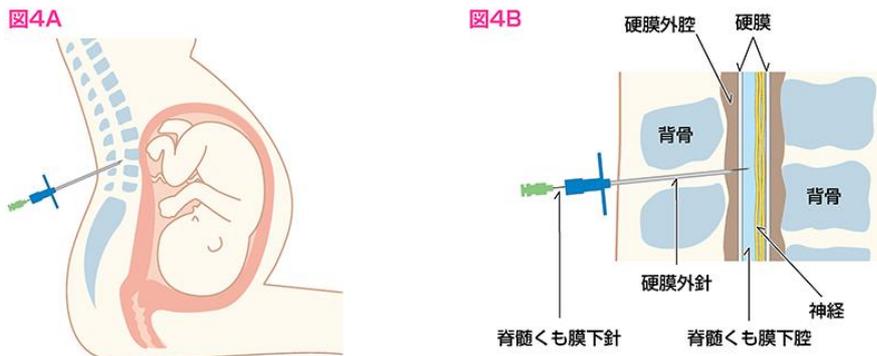
《麻醉時の姿勢》



《硬膜外麻醉》 日本産科麻酔学会 HP より



《脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔）》 日本産科麻酔学会 HP より



4. お母さんへの影響

- ① 腰痛・下肢の神経損傷は、分娩後にまれにみられる合併症でもありますが、無痛分娩の処置の際に神経が傷つき起こる可能性もあります。可逆性のものがほとんどですが、治療に長期間かかる場合もあります。
- ② 無痛分娩の処置の際に硬膜を損傷した場合や、脊椎麻酔を併用した場合など、無痛分娩後に頭痛が起こることがあります。ほとんどの場合、1週間以内に硬膜が修復されると共に治ります。
- ③ 非常にまれに、血腫や膿瘍が硬膜外腔にできて神経を圧迫し、感覚や運動麻痺を起こす可能性があります。
- ④ 局所麻酔薬によるアレルギーの可能性ががあります。
- ⑤ 硬膜外麻酔の使用時間が長くなると、お母さんが発熱することがあります。
- ⑥ まれに、全脊髄くも膜下麻酔といって局所麻酔薬が脳まで達してしまうことがあります。命にかかわる状態であり、麻酔を中止し治療を行います。
- ⑦ 硬膜外カテーテルの血管内迷入などで発生する局所麻酔中毒というものがあります。発生すると重症化するため、麻酔を中止し治療を行います。
- ⑧ 麻酔の合併症として、下肢の痺れや脱力、血圧低下、かゆみ、吐き気が生じることがあります。症状がありましたら、適切に対処致します。
- ⑨ 通常分娩より出血のリスクが高くなると言われています。

5. 赤ちゃんへの影響

- ① お母さんの痛みが少ないために、呼吸が安定し、赤ちゃんへの酸素が十分に届けられます。
- ② 硬膜外麻酔における局所麻酔薬が胎盤を通過して赤ちゃんに与える影響はほとんどないと考えられています。お母さんに血圧低下がみられた場合には赤ちゃんに影響が及びますので、無痛分娩中は赤ちゃんとお母さんの全身状態について常にモニター管理しており、すぐに対応出来る体制を整えています。
- ③ 局所麻酔投与後、子宮が過剰に収縮することがあり、それにより一過性に赤ちゃんの心拍数が低下することがありますが、この変化は基本的にはすぐに回復します。

6. 分娩経過への影響

- ① 陣痛を人工的に起こすため、陣痛促進剤の使用が必要となります。
また、陣痛促進剤を用いても陣痛が微弱な場合、人工的に破水（人工破膜）をさせ陣痛を強めることがあります。ただし、陣痛促進剤の使用・人工破膜を行っても、当日に分娩に至らない場合があります。
- ② 産道出口部で娩出力が弱く分娩が遅延する可能性が高くなるため、鉗子・吸引分娩になることがあります。

7. 医療行為（検査、治療、手術）後の合併症の発生時の対応

万が一、合併症が発生した場合には最善の処置、治療を行います。緊急の処置や再手術が必要な場合もあります。最善の治療を行いますが、極めて稀に合併症から立ちなおれず、不幸な転機をたどることがあります。合併症と判断された場合は、それを含めて原疾患の治療として、患者様の保険診療による負担になります。

8. 注意事項

- ① 血液検査の結果や、背骨周辺の病気、解剖学的理由、妊娠経過の問題などで、無痛分娩が行えない場合があります。
- ② 誤嚥性肺炎の危険を減らすために、無痛分娩前は4時間以上の禁食をお願いしています。お水やお茶、

スポーツドリンクなどの飲水は可能です。

- ③ 麻酔中は転倒の危険があるため、原則として歩行禁止です。
ベッド上安静となるため、トイレに行くことはできません。また、麻酔の影響で排尿困難になることもあります。そのため、尿道留置カテーテルの挿入を行います。
- ④ 分娩誘発日より前に陣痛が来てしまった場合、麻酔を施行できないことがあります。
- ⑤ 硬膜外カテーテルを挿入し、麻酔薬を使用した場合には、効果が不十分であったとしても麻酔管理料を算定させていただきます。
- ⑥ 硬膜外カテーテルを挿入したものの、分娩が進行しないなどの理由で麻酔薬を使用せず、硬膜外カテーテルを抜去し分娩誘発を終了した場合には、無痛分娩の麻酔管理料は算定されず、硬膜外カテーテル挿入の手技費用として5万円を算定させていただきます。
麻酔薬を使用したものの、分娩が進行しないなどの理由で硬膜外カテーテルを抜去し、分娩誘発を終了した場合には、無痛分娩の管理料15万円が算定されます。
一度麻酔を使用した分娩誘発を終了した方が、後日改めて無痛分娩を行った場合、無痛分娩管理料1回分15万円と、もう1回分の硬膜外カテーテル挿入の手技費用5万円の合計20万円を算定します。無痛分娩管理料を2回算定することはありません。
- ⑦ 無痛分娩中に麻酔の効き目が良くない場合は、カテーテルを再挿入することがあります。追加費用はかかりません。体制上カテーテルの入れ替えが困難な場合、硬膜外カテーテルを抜去し、以降自然分娩となります。
- ⑧ 無痛分娩に対応できる曜日に制限があるため、陣痛誘発を行っても分娩に至らない場合、陣痛誘発終了時に硬膜外カテーテルを抜去し、以降自然分娩となります。
- ⑨ 夜間や、分娩が同時に沢山進行している場合は、無痛分娩を行えないことがあります。

他、気になることがありましたら、当日、麻酔担当医にお尋ねください。

9. 同意後に医療行為の中止もしくは変更をする場合

いったん同意書を提出しても、医療行為が開始されるまでは医療行為を受けることをやめることができます。やめる場合にはその旨を下記まで連絡してください。

10. 連絡先

今回の診療行為についての質問がある場合や、受けた後に緊急の事態が発生した場合には、当院の代表番号03-3320-2210に連絡し、対応すべき部署とご相談ください。

JR 東京総合病院 代表番号 03-3320-2210 当該診療科 産婦人科

なお、当院入院中の場合は、担当医師や病棟看護師に遠慮なくお申し出ください。

無痛分娩の同意書（患者控え）

（氏名の記入は自筆署名，もしくは記名押印）

JR 東京総合病院 病院長 殿

私： @PATIENTNAME (ID:@PATIENTID) は、 無痛分娩
を受けるにあたり、下記の説明者から、JR 東京総合病院で無痛分娩・陣痛促進剤の説明を受け、
無痛分娩の流れ、方法、メリット、デメリット、合併症、注意事項などを十分に理解したうえで、
私は陣痛促進剤を用いた硬膜外麻酔による無痛分娩を希望し、実施の同意、依頼を致します。

説明内容の確認

- 無痛分娩の内容
- 無痛分娩に関連して起こりうる合併症・発生頻度
- 合併症発生時の対応
- 同意を撤回する権利
- 連絡先

同意年月日： 年 月 日

患者：

親族①： (続柄)

親族②： (続柄)

※患者様本人が同意能力のない未成年の場合、または意識障害・病状等により同意・署名が出来ない場合は、上記の親族署名欄に保護者、親権者、もしくは未成年後見人、または親族等の方による署名をお願いいたします。

説明年月日： @SYSDATE

説明者： @USERNAME 所属 @USERSECTION

同席者： 職種

同席者： 職種

無痛分娩の同意書（病院控え）

（氏名の記入は自筆署名，もしくは記名押印）

JR 東京総合病院 病院長 殿

私： _____ @PATIENTNAME (ID:@PATIENTID) _____ は、 _____ 無痛分娩 _____ を受けるにあたり、下記の説明者から、JR 東京総合病院で無痛分娩・陣痛促進剤の説明を受け、無痛分娩の流れ、方法、メリット、デメリット、合併症、注意事項などを十分に理解したうえで、私は陣痛促進剤を用いた硬膜外麻酔による無痛分娩を希望し、実施の同意、依頼を致します。

説明内容の確認

- 無痛分娩の内容
- 無痛分娩に関連して起こりうる合併症・発生頻度
- 合併症発生時の対応
- 同意を撤回する権利
- 連絡先

同意年月日： 年 月 日

患者：

親族①： (続柄)

親族②： (続柄)

※患者様本人が同意能力のない未成年の場合、または意識障害・病状等により同意・署名が出来ない場合は、上記の親族署名欄に保護者、親権者、もしくは未成年後見人、または親族等の方による署名をお願いいたします。

説明年月日： @SYSDATE

説明者： _____ @USERNAME _____ 所属 _____ @USERSECTION _____

同席者： 職種

同席者： 職種